

実践記録 シリーズ 80

第55回新潟県公民館大会 実践記録発表1から



市民の能力を引き出す 公民館づくり

上越市公民館 係員 松澤 博紀

●はじめに…上越市公民館の組織(省略)

●新たな市民活動の出発点として…パソコンサポーター育成講座(省略) 県公民館大会資料P16～18参照

●地域力を活かした特色あふれる事業

☆事例1) 三郷ウォークラリー「みんなの三郷よく知り隊!」…三郷分館
三郷地区は市中心部から少し離れた所にあり、人口は約1,400人。昔からの農村地区と新興住宅地が混在している地域です。小学校は地域内に1校のみであることもあり、地域と学校、また公民館とのつながりも良い所です。

◇ウォークラリーの概要

主催…小学校PTAと公民館

※これまではそれぞれが単独で事業を行い、また内容等も互いに事前を知ることは無かったため、このような全校児童が少ない(約70人)地域では参加する子ども達の負担になる部分もありました。そのため、今年度はできるだけ子ども向けの事業を行う所と、事業を行うことによって子ども達の負担を減らすとともに、一つの事業の効果を高めるといった部分もねらいました。

公民館の役割…案内チラシの作成・配布、当日使用する解答用紙、得点集計表の作成
地域の「名人」への講師依頼(1人)、準備場所(分館)の提供

※地域でできるものはできる限り地域内でお願いし、チラシ作成など、公民館職員の技術が必要になるものに関しては行政が担うという分担で行なっていました。

当日の運営…PTAを主体に行う。

※公民館側は事前の準備を手伝い、ウォークラリー中は全体把握と安全を確保するために各チェックポイントを見回す程度でした。



■ウォークラリーの様子

各チェックポイントは地域の方が担当しました

☆事例2) 子ども自由活動ひろば「わだっこ公民館」…和田分館
和田地区は市の南端に位置し、人口は約6,000人。地域内には二つの小学校があります。今回、そのうち1小学校での校長先生と分館協力員との何気ない会話からこの「わだっこ公民館」が生まれました。

◇「わだっこ公民館」とは…

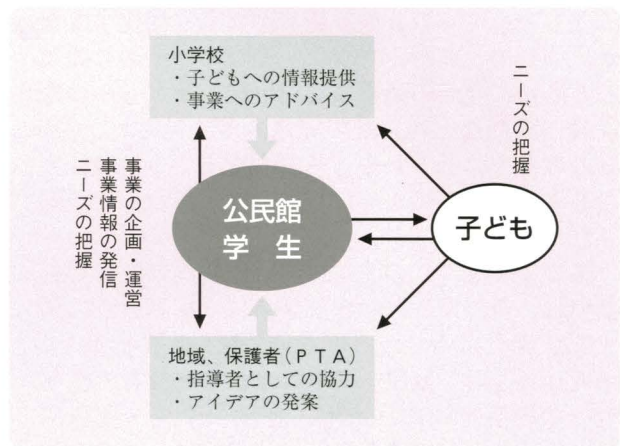
学校週5日制に対応する事業として、月1回土曜日に分館を開放し、地域の小学生が自由に集まり、時にはテーマを持って遊び、またある時には子ども達が自由に遊び・学習する場を提供する。モットーは「みんながたのしい公民館」

◇事業実施に向けて…

- ① 地元の大学(教育学部)に通う学生ボランティアを募集して子ども達と遊びや学習を共に行う他、企画運営にも携わってもらう。また、地域住民にも呼びかけて、公民館が企画した各種体験講座での講師をしてもらったりする等、さまざまな「お楽しみ」的の事業をリンクさせながら行うようにする。
- ② 公民館と学生ボランティアが中心となって事業を企画・運営するが、常に小学校・地域との連携を図りながら子どものニーズを収集し、時には学校・地域からの助言をもらいながら事業を行う。(下図参照)



■第1回目の様子
(「ゲームであそぼう」)



◇最終的には…

分館を拠点にして地域の子供達が自発的にさまざまな活動を提案するようになり、それを公民館と地域住民が共に見守り、育てていく活動ができればと考えています。

上越市の公民館では、年間を通して継続的に地域住民・学校とともに活動するという事は初めての試みです。今後の展開はまだ未知数ですが、地域力を活かし、地域住民が気軽に事業に参画できる公民館をつくり上げることができればと考えています。

●おわりに

現在の上越市は高田・直江津の市街地と、分館のある14地域がそれぞれ独特の地域性を持っています。このような地域に対し、行政は出すことなく、その一方でしっかりと下から支えていくような役割を果たすことが、地域力を活かした協働につながるのではないかと考えます。それは、行政側から「仕掛ける」様々な市民活動についても当てはまることです。それぞれ活動の主役は市民であり、行政はその活動を見守り、時には方向修正を手伝うという存在であることが必要と考えます。

上越市は14市町村の大規模な合併に直面しており、ますます地域性・地域力が多様化してきます。そうすると、いよいよ市民主導のまちづくりが必要になってくるのではないかと考えます。今後は、それぞれの地域の力を掘り起こし、いかにしてそれを支援し、伸ばしていくかというところに行政の大きな役割があると信じ、自分自身その課題に立ち向かうことで、責任の一端を担っていきたくと考えています。